

亙理町こどものまなびサポート事業

事業代表者 長谷川万由美(教育学部・教授)

1. 事業の目的・意義

2011年より支援活動に伺っている宮城県亙理町で、復興までいまなお道りが遠い東日本大震災の被災地の子どもたちの学びと育ちを支えることを目的として、本事業に取り組んだ。本年度は夏祭りの運営への参加および逢隈小学校でのサマースクールを実施することにより、被災地域と本学のつながりを深め、被災地におけるこどものまなびをサポートする。



図2 バルーンアートのブース

2. 事業内容

(1) 8月2日・亙理町立荒浜小学校夏祭り

宮城県亙理郡亙理町立逢隈小学校・荒浜小学校の夏祭りのボランティアとして活動した。会場準備、後片付け、各自屋台ごとの手伝い(焼きそば、かき氷、くじ引きなど)を行なった。事前にプロジェクトのOBの方々によるバルーンアート講習会に参加したメンバーは、逢隈小学校でバルーンアートの担当を任せられ、子どもたちにバルーンをプレゼントした。また、地区ごとに作ったみこしパレードに宇〜太を連れて参加し、盆踊りにも参加した。夏祭り終了後には、「震災語り部の会ワッター」の方のガイドによる沿岸視察やDVD鑑賞で、震災の被害と復興の様子を学んだ。



図1 みこし行列に参加する宇〜太

(2) 8月21日22日・亙理町立逢隈小学校サマースクール

平成27年8月18日から20日に実施した。1日目は福島県飯館村および南相馬市の震災スタディーツアーを行ってから亙理町に向かった。2,3日目は逢隈小学校で夏休みの学校を利用したサマースクールを開催した。小学生との学習や体験授業はとても新鮮なもので、充実した時間を過ごすことができた。来年も開催を楽しみにしているとの声があったため、今年の実践を生かし、より楽しんでもらえる活動にしたい。午前の部では学年ごとの勉強の他、作文・絵画・理科実験などの教室を開催した。理科実験では、浮沈子・ペーパークロマトグラフィーを利用した実験を行なった。午後はドラムサークル、子どもたちが各自持ってきた宿題をみたり、作文・絵画のアドバイスをしたりした。

表1 2015年サマースクールの内容

	8月19日(水)	8月20日(木)
午前 9:00 ~10:50	なんでも勉強相談室	*いろいろな勉強の他に絵画、作文、理科実験を開催
お 昼 11:00 ~ 12:50	野外クッキング	お弁当を一緒に食べよう
午 後 13:00 ~ 15:00	○自然と遊ぼう○ドラムサークル&毛糸で遊ぼう(19日のみ)○エーサーを踊ろう○ニュースポーツ○毛糸で遊ぼう(20日)	

図 3 参加者受付ブースを担当する学生たち



参加者は2日間のべで300人近くとなり、在校生の1/4程度が参加している。逢隈小学校および町教育委員会からも高い評価を受けている。

(3) 11月8日・亘理町復興マラソン大会運営ボランティア

11月には2012年より行われている亘理町復興マラソン大会の運営ボランティアとして学生19人が参加した。東日本大震災までは鳥の海マラソン大会として開かれていたものであるが、2012年からは復興マラソン大会として開催され、その大会より本学学生が運営ボランティアとして参加している。当日は町役場や町体育指導者協会の方々と一緒に活動する中で町の方々の復興に向けた思いに触れたりしながら活動することができた。大会終了後は亘理町に隣接する岩沼市の被災地域に作られた専念希望の丘を見学し、被災地復興の現



状について学んだ。

3. 事業の進捗状況

概ね年度当初の予定通りに事業は進捗できた。

4. 事業の成果

事業の成果としては以下のような点があげられる。

○活動を通じて被災地の子どもへの健やかな発達に直接に寄与することができた。

○参加した学生が子どもとの関わりを学ぶだけでなく、被災地を体感することにより、その後の教職などの仕事に生かすことができた。

○近隣に大学のない宮城県亘理郡において被災地の子どもが大学生という存在と触れる機会を提供することにより、多様な大人とのふれあいを通じた自己形成のきっかけとなった。

○震災より4年経つがいまだ復興への道のりが遠い被災地にあつて、引き続き、活動を続けることにより、本学の被災地を忘れないという姿勢が社会に伝わった。

5. 今後の展望

亘理町より今後も引き続きサマースクールやマラソン大会への参加を要請されている。初回の復興マラソン大会からボランティアとして学生が参加してきたことに対し2月には町より感謝状が贈られた。震災への学生の意識の変化や経費捻出など課題はあるが、当面は活動を継続することにより上記のような貢献を大学および被災地に行える

ようにしていきたい。

